最高学部（大学部）

2025 年度学部祭を振り返って

神　明久

学部祭は 2024 年度からはじまった、最高学部の新しいイベントである。学部祭となるまでには、2023 年度から少しずつイベントを展開し、機運を高めステップアップしてきたため、その経緯と 2024 年度に行われた第一回学部祭のことも合わせて紹介する。最高学部の広報的側面だけでなく、学生自身が楽しみ、そのなかから成長を得るイベントをめざして、学生と学生委員会、教員との関わりを模索してきた。

1.学部祭をはじめるまで

思えば、コロナ禍の影響がまだ残る 2023 年、ある学生が「学部でイベントってできますか？」と私に質問してきた。考えてみれば、先輩も含め、集まらない、騒がない、講義が終わったらすぐに帰宅するなどという習慣が、それまで普通に行っていた学部生の活動を消し去ってしまったのだと驚いた。以前は、自由すぎて困ってしまう面もあるくらい、学生同士やりたいことを企画運営していた。多少の危機感すら覚えた。そこで、委員会担当だった私は、委員主催でいくつかイベントを考えてもらい、実行に移すことにした。

委員長・副委員長とは毎週 1 回打ち合わせをしているが、その内容は多岐にわたる。その一つとしてイベントのアイデアを雑談のような形から、実現まで伴走した。2023 年度は何かをやるたびに、新しい様々なアイデアが生まれて実行に移された。学部棟全体を使ったハロウィンや七夕のお祭り、流しそうめんや肝試しなど、どれも決して大がかりではないが、みんなが楽しめる企画だった。

2.第一回学部祭の開催

そして、2024 年の 11 月 3 日、学部祭の第一回を行うことになった。これは、学部の広報的側面としても期待されたことだが、学部生がさらに広範囲で協力し、より大きなイベントを自分たちで運営する段階に至った結果とも言える。

実行委員は、学生委員会と有志とし、企画はクラスで考えたイベントに加え、教員側からのリクエストも受けて、学部の生活や実習やゼミといった特徴ある活動の展示も行った。委員から最高学部生にアンケートを実施し、やりたいことを集め、学生有志の企画として実行した。

来場者数は、それほど多くはなかったが、何より運営に参加した学生自身が楽しみながら実施できたことが、初回の開催としては成果だろう。

3.2025 年度学部祭の開催

2025 年、2 年目の学部祭を迎えた。今年は、6 月 21 日（土）14 時から 18 時で実施した。年度が始まってからの準備期間は短くなるが、最高学部の広報的な側面からこの時期の開催となった。

2025 年度は、有志学生の企画は行わず、学年ごとに企画を考えた。新年度開始後から、学年ごとに話し合う機会を設けてもらい、企画案を出してもらい調整した。その一つである 4 年生が考えた「学部人生ゲーム」は、ゲームを通して学部の入学から卒業まで主要な要素を体験し、すべてクリアすると卒業証書がもらえるというものだった。大人でも夢中になるほど面白い内容で、参加者から好評を博した。思えば、入学当初はイベントなど行う事が出来なかった学生が、4 年の後、楽しみつつも大きなイベントで成果を挙げるまでに成長できたことは喜ばしい。広報的にも、参加者全体が 100 人を超え、中高生の参加者も多く見られた。

4.今後への課題と展望

最後に今後の課題点を挙げるとすれば、より学生主体で進めていくことや、準備期間等の環境整備が挙げられる。現在は、学生も十分参加してはいるが、ある程度教員側からの働きかけもあり成り立っている。今後は、企画運営のほとんどを学生主体でできれば、さらに面白いアイデアが生まれて、学部の楽しいイメージが伝えられるだろう。

一方で、準備期間の確保や様々な許可については、学生自身も関わる必要があるが、教員側のサポートが必要だと考える。とはいえ、確実に前進しつつある学部祭が、さらに良い方向に進化していくことを願っている。